

日交研シリーズ A-651

平成 26 年度研究プロジェクト

「地域・都市の総合交通政策プロジェクト」

刊行：2016 年 7 月

地域・都市の総合交通政策の研究—道路交通と公共交通システムの改善—

Integrated Transport Policy for Urban Areas with reference to Cordinations
between Road Infrastructure Provision and Public Transport Service

主査：石田信博・松澤俊雄（同志社大教授・大阪市立大名誉教授）

Nobuhiro ISHIDA ,Toshio MATSUZAWA

要 旨

本研究グループでは、これまで地域・都市の構造の分析と、交通部門における人的・物的輸送、インフラ整備における対応およびそのあり方の分析を通じて、地域・都市交通における統合的交通政策の観点からできるだけ間口を広げて様々な研究を進めることで成果を報告してきた。今年度は、まず第 1 章「道の駅が地域経済に与える影響」では、道路に通行機能以外にも付加価値を生み出している「道の駅」を例として混雑緩和やモビリティの向上だけではない「道路」整備の別の観点からの価値感について考えてゆく。先行研究を整理することで、「道の駅」が単に販売施設だけでなく、利用者と農林水産物生産者間の交流の場としての地域経済的機能をはたしている点を見いだす。第 2 章「上海市の鉄軌道交通システムの発展過程と運営状況」では、上海市の鉄軌道交通システムの発展過程とその運営状況・方向性について考察する。90 年代からの経済の高成長、都市人口の急増と住宅地の郊外化等による都市交通需要の増加に対して、発展に見合う都市インフラ投資が拡大されてきた。僅か 20 年間で 12 の地下鉄路線が整備され、中国最大の鉄軌道交通ネットワークが形成された。上場企業を含む 2 つの国有企業で運営されているが、主に観光者向けの磁気浮上式高速鉄道線の運賃はやや高めに、他の 14 の地下鉄線・ライトレール線の運賃は中国国内の最低水準になっている。近年では、年間延べ 30 億人近くに利用されているものの経営赤字となり課題も見られる。第 3 章「道路利用にみられる時間的平準化と効率性」では、道路利用にみられる時間的な変動について実証的研究を行い、とくに利用の多い昼間時（7-19 時）での 1 時間交通量は近年になるほど、また、都市規模が大きくなるほど平準化が進行しており、その要因について一定のルールを見いだすとともに道路利用の効率性についても若干の考察を加える。第 4 章「産業集積の展開と物流インフラ —タイとインドネシアの比較検討—」では、産業集積の展開過程で整備される物流インフラについて考察し、ASEAN のなかでも経済成長が著しいタイとインドネシアにおける物流インフラ整備が地域や産業に及ぼした効果とその課題について、両国の地理的・経済的環境にもとづきながら比較検討する。

キーワード：道の駅、上海鉄軌道交通、道路利用の効率性、物流インフラと整備効果

Keywords : Michi-No-Eki (Roadside Stations), Shanghai Metro System, Efficiency in Road Use, Infrastructure Provision for Physical Distribution